

在宅酸素療法における火気の取扱いについて

1. はじめに

在宅酸素療法は、慢性呼吸不全の患者が酸素濃縮装置、液化酸素及び酸素ボンベ（以下「酸素濃縮装置等」という。）を用いて、自宅で高濃度の酸素吸入を行う治療法です。

酸素濃縮装置等は添付文書や取扱説明書等に従い適切に使用すれば安全な装置ですが、酸素は燃焼を助ける性質が強いガスなので、火気の取扱いについて細心の注意が必要です。酸素濃縮装置等の添付文書や取扱説明書等には、火気を近づけないよう記載されており、また、厚生労働省や一般社団法人日本産業・医療ガス協会において、酸素吸入時の火気の取扱いについてのパンフレットや動画を作成・配布するなど、患者やその家族等に向けて様々な注意喚起が実施されています。

しかしながら、在宅酸素療法を受けている患者が、喫煙などが原因と考えられる火災により死亡するなどの事故が繰り返し発生しており、改めて注意喚起の徹底をお願いします。

この度、表1のとおり、一般社団法人日本産業・医療ガス協会における取りまとめにより「在宅酸素療法を実施している患者居宅で発生した火災による重篤な健康被害事例」について、平成28年11月末時点の情報に更新されましたのでご紹介いたします。

2. 安全対策の徹底のお願い

厚生労働省と一般社団法人日本産業・医療ガス協会では、これまでも注意を呼びかけてきましたが、在宅酸素療法を受けている患者やその家族等には、酸素吸入時の火気の取扱いについて、以下の点を十分に理解した上で、酸素濃縮装置等を使用していただくことが必要です。医療関係者におかれましては、患者やその家族等に対し、以下の点に関する注意喚起の徹底を改めてお願いします。

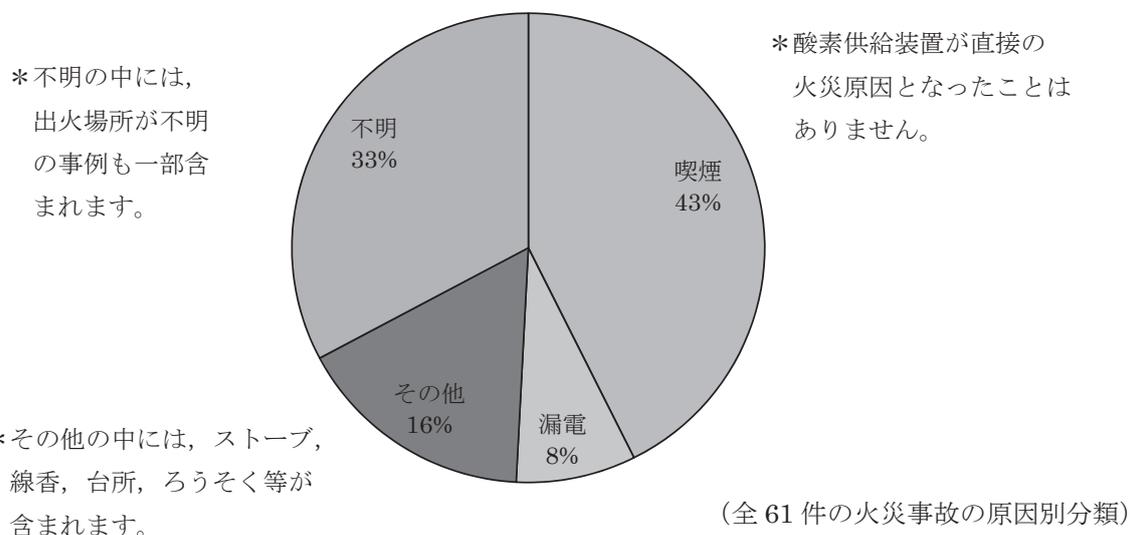
- 1) 高濃度の酸素を吸入中に、たばこ等の火気を近づけるとチューブや衣服等に引火し、重度の火傷や住宅の火災の原因となります。
- 2) 酸素濃縮装置等の使用中は、装置の周囲2m以内には、火気を置かないで下さい。
特に酸素吸入中には、たばこを絶対に吸わないで下さい。
- 3) 火気の取扱いに注意し、取扱説明書どおりに正しく使用すれば、酸素が原因でチューブや衣服等が燃えたり、火災になることはありませんので、過度に恐れることなく、医師の指示どおりに酸素を吸入して下さい。

〈参 考〉

- 厚生労働省：在宅酸素療法における火気の取扱いについて
http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000003m15_1.html
- 「在宅酸素療法を実施している患者居宅で発生した火災による重篤な健康被害の事例」（一般社団法人日本産業・医療ガス協会）
http://www2.jimga.or.jp/dl/iryo/all/top/HOT_jiko.pdf
- 「在宅酸素療法における火気取扱いの注意」（一般社団法人日本産業・医療ガス協会）
<http://www.jimga.or.jp/front/bin/ptlist.phtml?Category=7041>

表 1 在宅酸素療法を実施している患者居宅で発生した火災による重篤な健康被害事例
 （一般社団法人日本産業・医療ガス協会作成資料（平成28年11月末時点））

〈火災事故原因別の分類〉



No	発生年月	場所	年齢（性別）	被害状況	原因（推定含）
1～52	平成15年12月～平成26年12月			死亡 50件, 重症 2件	喫煙, 漏電, ストーブ他
53	平成27年 2月	大阪府	80代 (男)	死亡 (焼死)	(不明)
54	平成27年 4月	千葉県	80代 (女)	死亡	(不明)
55	平成27年 5月	埼玉県	60代 (男)	死亡 (焼死)	(不明)
56	平成27年 6月	静岡県	70代 (女)	全身火傷 (重症)	(不明)
57	平成27年11月	愛知県	80代 (男)	死亡	(不明：延長コードか)
58	平成27年12月	茨城県	80代 (男)	死亡 (焼死)	(不明)
59	平成28年 1月	島根県	80代 (男)	死亡 (焼死)	(不明)
60	平成28年 3月	岡山県	70代 (女)	死亡 (焼死)	(不明：煙草か)
61	平成28年 4月	広島県	60代 (男)	死亡	喫煙

※一般社団法人日本産業・医療ガス協会の会員企業を通じて、平成15年10月以降に発生した事例を調査・集計したもの。

※報告の基準：「在宅患者居宅で火災が発生し、患者様が死亡ないし重体もしくは重傷を負った場合」（火災の発生を喫煙のみに特定せず、原因が特定できない場合も含む。）